

## Book Review 27-10 ノンフィクション #OS018 を追え

『#OS018 を追え』（藤本靖著）を読んでみた。著者は北海道標津町在住。NPO 法人「南知床・ヒグマ情報センター」前理事長、現・主任研究員。

日本中の住宅地に熊が出没している。松前町近郊でも、つい最近、裏山の畑で仕事中の老夫婦が襲われている。糖尿病で診ている患者さんの体重が増えていたので理由を聞いたら、熊が出て襲われると危険なので配偶者に散歩を禁止されたからだと言われた。もう他人ごとではない。

本書は、2019 年夏、北海道東部で、牛を次々と襲う謎の熊（ヒグマ；OS018）が確認された。捕獲に乗り出したハンターたちの数年に及ぶ闘いの 5 年にわたる記録である。ちなみに藤本氏は銃を持たない。

「OS018」とは、肉食に目覚めた熊で、標津町オソベツ付近に出没する足跡が 18 cm 幅であるところから命名されたようだ。「OS018」は特別な熊であったのか。最後まで読むと、本来は普通の熊であったことが判明する（最期は人間の仕掛けた違法罠で衰弱し仕留められた）。人間中心の考え方が森林環境を激変させ、本来草食で臆病であった熊が、人間によって放置されたエゾシカの屍肉を漁ることで肉の味を覚え、一気に肉食化して、森の植物や果実には目もくれず、動物を襲うようになったのだ。ということは、人間が考えを変えない限り、次から次への第 2、第 3 の「OS018」が出現することを意味している。

「地球沸騰」にしても「肉食熊」にしても、人間本位の快適さを求め続ける活動の予想もしなかった結果であったのだ。私たちはこの点を考え直さなければならぬ時期に来ている。